

# 町指定有形文化財に指定! (種別:工芸品)

## 傍示本 春日社 (神明社) の “懸仏 (かけぼとけ)”

～ 織豊期 東郷の歴史を知る貴重資料 ～

東郷町の傍示本地区 (旧傍示本村) 春日社内に大切に保存されてきた神明社「懸仏」が、8月18日に東郷町指定有形文化財として新指定されました。町の文化財指定は9年ぶりです。

指定された「懸仏」は、590年前の永享2年 (1430) に沓掛城主 (近藤氏) が奉納寄進しているもので、円形の鏡板上に薄い銅板が貼られ、中央に立体的に2軀の仏像が配されています。

背面には奉納寄進の時期と寄進者名が墨書されていて、この内容から傍示本村は、永禄3年 (1560) の桶狭間の戦いの際まで、100年以上の間、沓掛城主である近藤氏の勢力下であったことがわかります。

そして天正12年 (1584) の小牧長久手の戦いの際には、丹羽氏の勢力下となっていて、岩崎城主 (現日進市内) 丹羽氏次の弟、氏重が傍示本城主となっていたという東郷町の中世の歴史の流れを知ることが出来ます。

桶狭間の戦いの際の沓掛城主近藤九十郎景春は、今川方に味方していたため、戦いに敗れ天神山 (現東郷町春木清水ケ根) で自刃※したと伝えられており、位牌が玉松山祐福寺に祭られています。

「永享第二曆」とは「永享2年」  
「十二月朔日」とは「12月1日」  
の意味です。



### 傍示本村 … 近藤氏「沓掛城」と丹羽氏「岩崎城・傍示本城」の年代的関係

- 永享 2年 (1430) 12月 沓掛城主 (近藤氏) が傍示本神明社 (現春日社内) に本懸仏を奉納。
- 永享 3年 (1431) 3月 沓掛城主 (近藤基行) が傍示本春日社に小型の懸仏を奉納。
- 永禄 3年 (1560) 5月 織田信長軍が今川義元軍に「桶狭間の戦い」で勝利。  
今川方の沓掛城主 (近藤九十郎景春) が、天神山で自刃。
- 天正12年 (1584) 4月 小牧・長久手の戦いで家康軍が秀吉軍に勝利。  
家康に随行していた丹羽氏次の居城「岩崎城」を守っていた弟の傍示本城主「丹羽次郎三郎氏重」が、秀吉軍別動隊の岡崎への極秘進行を阻止し、徳川軍勝利に貢献。  
氏重は16歳、岩崎城で戦死。

※景春の墓碑が、子孫によって江戸時代に建てられ、現在も天神山山頂に建っています。

沓掛城のあった場所は、県立豊明高校のすぐ南側 (豊明市沓掛町本郷) で、現在は城址公園として整備保存されており、自由に見学することができます。